出発直前の田野畑行きの列車

つながろう

復旧へ、力強い一歩

震災後5日で久慈―野田間の運行を再開した北リアス線。再開直後は、被災者や復興を支援するボランティアの足として、人と共に一輪車などの支援物資も輸送しました。また被害の全容が明らかになると、復旧へは膨大な費用を要することが判明。存続すら危ぶまれた時期もありました。それでも地域の足として、1日も早い野田以南の復旧を臨む声は多く、久慈―田野畑間が再び1本のレールでつながりました。

東日本大震災から386日目となる4月1日、久慈駅舎内は久慈駅発田野畑行きの列車を待つ人でごった返しており、地域の期待を強く感じさせる状況でした。応援メッセージを記載・掲示するコーナーも設置され、多くの応援メッセージが寄せられました。10時20分、待ちわびた乗客で満員になった列車は力強いエンジンの音と共に、久慈駅を出発。また一歩、復旧の歩みを感じた瞬間でした。

現在、北リアス線の不通区間は田野畑―小本間の約10㎞。駅舎や線路の流出はひどい状況ですが、2年後の運行再開に向け日々復旧作業は続いています。

1

2

3

1／田野畑行の列車の開札を待つ人でごったがえした久慈駅舎内
2／応援メッセージを書く親子
3／利用者からの応援メッセージを張り出すコーナーにもたくさんのコメントが寄せられました

これからも地域と共に、地域のために

三陸鉄道 北リアス線運行本部 **金野 淳一** 本部長

地域の人に必要とされながら運行できずご迷惑をおかけしました。運行再開でようやく地域に貢献できると一安心しています。

復旧工事の開始が昨年11月とだいぶ遅かったので、限られた期間での復旧には大変苦労しました。実際に野田一田野畑間を列車が走行できるようになったのは3月19日ですが、この時点では信号灯の設備はまだ稼働していませんでした。その後は、乗務員の訓練、設備の確認作業などを実施し、安全運行を行えるよう問題点を一つ一つ解決していきました。運行再開前の3日間は、不眠不休での作業となりました。短期間での復旧を支えたものは、私達の運行再開に懸ける思いだけでなく、運行再開を願う地域の皆様の思いがあったからだと思います。

再開後は、通学の時間が半分以下に短縮したですとか、お歳を召した方からは自動車より車内空間に余裕がある列車の方がやはりよいというようなお言葉をいただいています。

現在、田野畑―小本間の復旧に向け、着々と準備を進めています。土木機械が動き、進捗が目に見えてくるのは夏ぐらいかと思います。

北リアス線のみならず、三陸鉄道にとって観光の目玉である野田一普代間の運行が可能になったことから、まずは震災以降激減していた観光客を呼び込み、沿線の市町村の観光収入につなげていきたいと思っています。地元があっての三陸鉄道です。運行再開がプラスの方向へ働くようこれからも地域と共に歩んでいきたいと思います。

INTERVIEW

これからも復興を頑張って！

久慈に来たのは初めてですが、久慈は風光明媚なところなので、また観光に訪れたいです。今回の三陸鉄道の田野畑までの開通からも一歩ずつ復旧が進んでいることが感じられました。これからも、復旧・復興を頑張ってほしいです。

磯部寛史さん**歩**さん（盛岡市）

小本までの早期復旧を切望！

今日は駅まつりを見るために、岩泉から車で送ってきてもらいました。帰りは三陸鉄道で帰る予定です。田野畑まで運行できるようになり本当に良かったです。久慈に買い物に来たいので、早く小本まで復旧してほしいです。

堀切 廣子さん（岩泉町）

駅前広場ににぎわい

いわてデスティネーションキャンペーンスタート

三陸鉄道の野田―田野畑間が復旧した4月1日、駅前広場では、久慈駅まつりが開催され、浜焼きや特産物品販売の屋台も出店し、駅前広場は多くの人でにぎわいました。この日は岩手では32年ぶりとなる国内最大規模の観光キャンペーン「いわてデスティネーションキャンペーン」の初日ということで、駅前広場ではご当地キャラじゃんけん大会や宝まき、アンダーパスのミニライブなどのイベントが行われました。宝まきには、田野畑駅から三陸鉄道に乗車し、インターネットの旅番組で三陸鉄道の運転再開を生中継していた俳優の阿藤快さんが飛び入りで参加。会場を大いに盛り上げました。

続くアンダーパスのミニライブでは、久慈湊保育園の園児17人が「さんてつのうた」「わんこきょうだい」の歌に合わせて踊りを披露。かわいらしい様子に開場の雰囲気は和みました。

いわてデスティネーションキャンペーンは6月30日まで。期間中は多くの観光客が見込まれます。

上／宝まきには阿藤快さんも飛び入り
下／アンダーパスが歌う「さんてつのうた」に合わせて踊りを披露する久慈湊保育園の園児たち